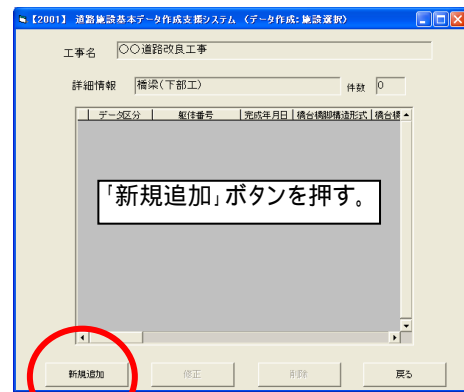
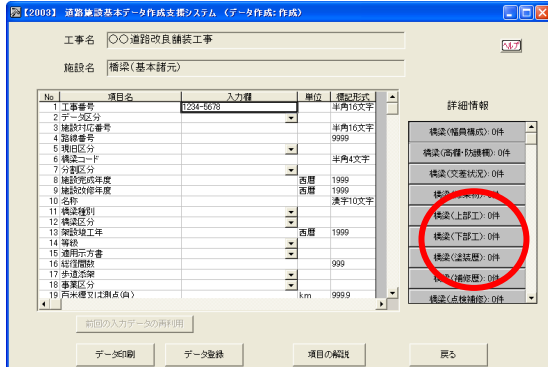
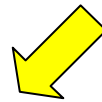


## < 詳細情報 > 橋梁 ( 下部工 )

[道路施設基本データ作成ツールによる < 詳細情報 > 橋梁 ( 下部工 ) 入力画面までの操作]  
「 < 工種情報 > 橋梁 」入力画面から操作を行います。



「 < 詳細情報 > 橋梁 ( 下部工 ) 」入力画面



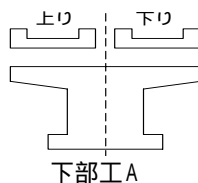
### 作成単位

橋梁(下部工)データ(1件)の作成単位は、< 工種情報 > 橋梁データ毎から最小作成単位の下部工躯体毎に作成する。

< 工種情報 > 橋梁の作成単位毎とする。

下部工躯体(橋脚または橋台)毎に作成する。

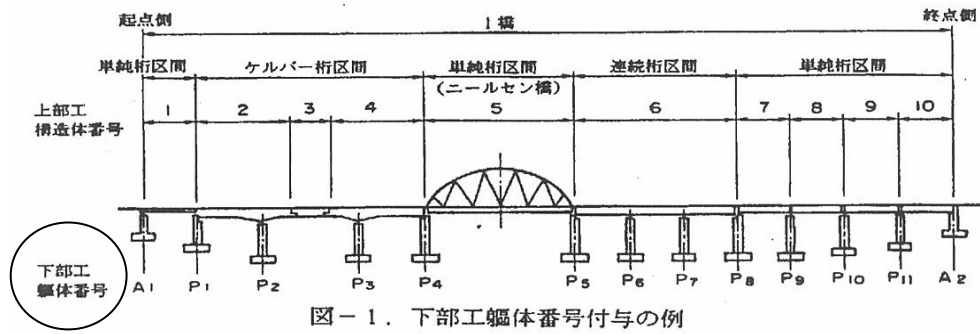
上部工が分離(上り、下り)していて、下部工が一体の場合は、分離しているそれぞれの上部工に対し、同じ下部工データを作成する。



上り側の橋に対し、下部工Aを作成する。

下り側の橋に対し、下部工Aを作成する。

D010 橋梁\_下部工 ( 2 / 12 )



「<詳細情報> 橋梁(下部工)」入力画面の各項目説明

【2003】 道路施設基本データ作成支援システム (データ作成: 作成)

工事名

施設名

No	項目名	入力欄	単位	標記形式
1	データ区分	<input type="text"/>		
2	躯体番号	<input type="text"/>		半角3文字
3	完成年月日	<input type="text"/>	西暦	19990101
4	橋台橋脚構造形式	<input type="text"/>		
5	橋台橋脚高さ	<input type="text"/>	m	999.99
6	起点側縁端距離	<input type="text"/>	cm	9999.9
7	終点側縁端距離	<input type="text"/>	cm	9999.9
8	基礎形式	<input type="text"/>		
9	基礎形状寸法A	<input type="text"/>	m	999.9
10	基礎形状寸法B	<input type="text"/>	m	999.9
11	杭径	<input type="text"/>	m	9.9
12	杭本数	<input type="text"/>		999
13	杭長	<input type="text"/>	m	9999.9
14	躯体基部形状寸法A	<input type="text"/>	m	999.9
15	躯体基部形状寸法B	<input type="text"/>	m	999.9
16	塗装年月日	<input type="text"/>	西暦	19990101
17	プライマー下塗塗料	<input type="text"/>		
18	中塗塗料	<input type="text"/>		

前回の入力データの再利用

データ印刷    データ登録    項目の解説    戻る

1. 「データ区分」...【コード選択】

該当施設に対して、新設か既設施設の改良/補修か撤去かを選択する。

区分	コード	備考
新設	1	新しい施設を設置した場合
改良	2	既設に対し、改良および補修を行った場合
撤去	3	既設を取り除いた場合

2. 「躯体番号」

下部工躯体毎の番号を入力する。

なお、番号の頭に橋台の場合は「A」、橋脚の場合は「P」をつける。

ただし、橋脚数が多く、躯体番号が99を超える場合は「A」、「P」をつけなくてもよい。なお、躯体部分に分かれていても同一の基礎を共有している場合は同じ躯体とみなし分割しない。

また、躯体番号は1橋の中で重複してはならない。

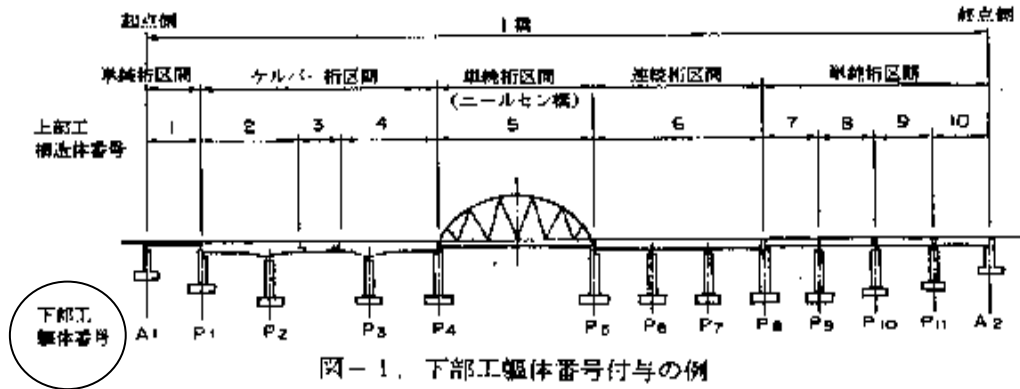


図-1. 下部工躯体番号付与の例

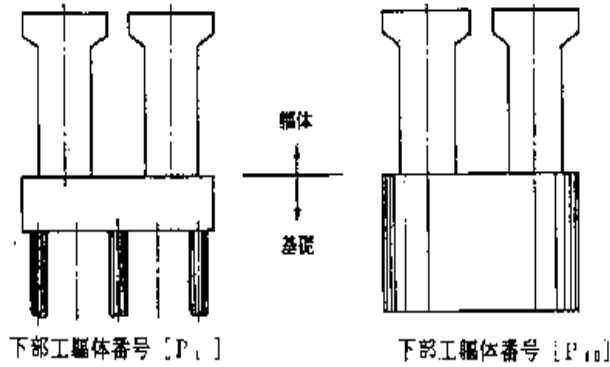


図-2. 躯体部分が分離構造で基礎が一体の構造の場合

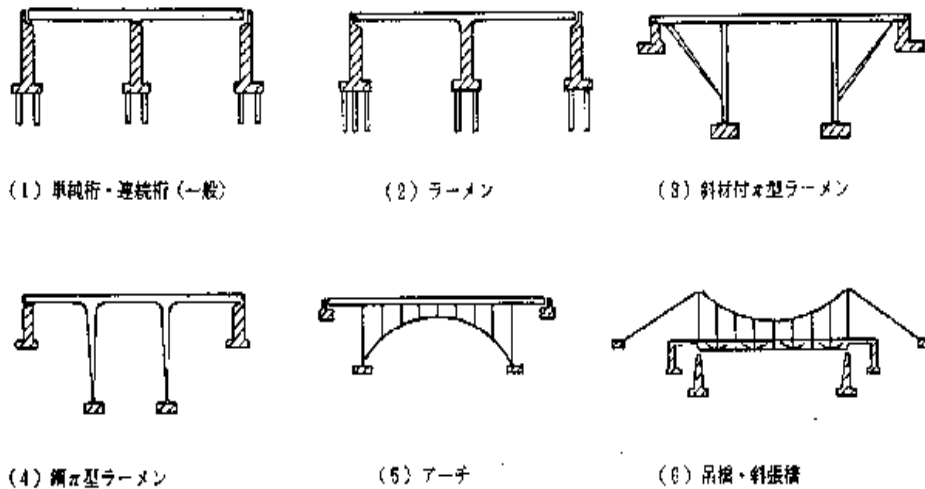
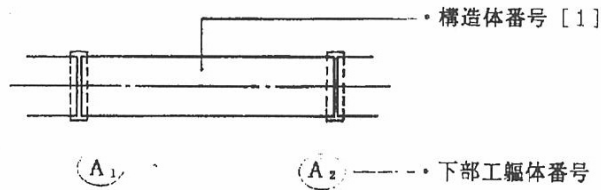


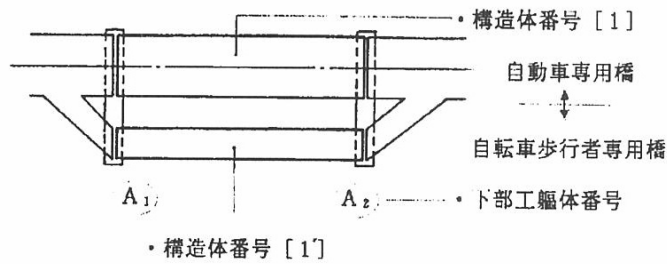
図-3 上部工・下部工の区分

(記入例)

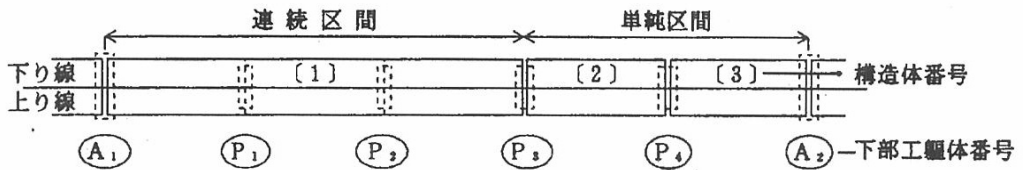
① 1スパンの場合



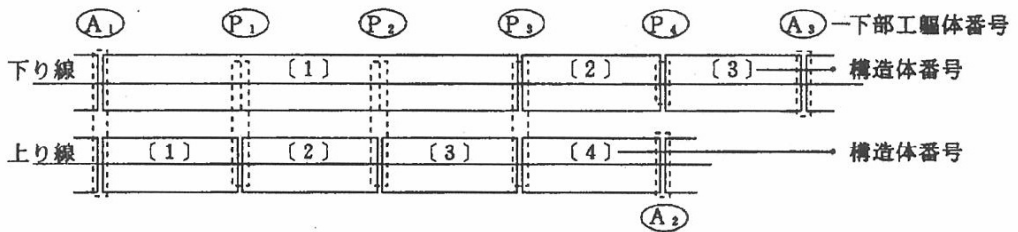
② 自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合



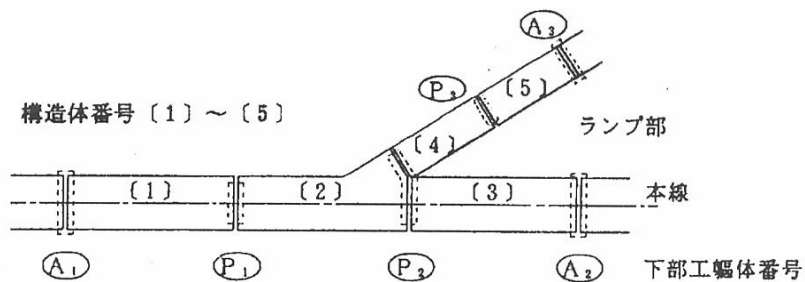
③ 連続と単純桁が架設されている場合



④ 上・下線に分離して架設されている場合



⑤ ランプ橋の場合



3. 「完成年月日」

該当する下部工の完成年月日(年は西暦)を入力する。  
 (YYYY年MM月DD日:「YYYYMMDD」と8桁で入力)  
 工事区分が改良(コード:2)の場合は、空欄とする。

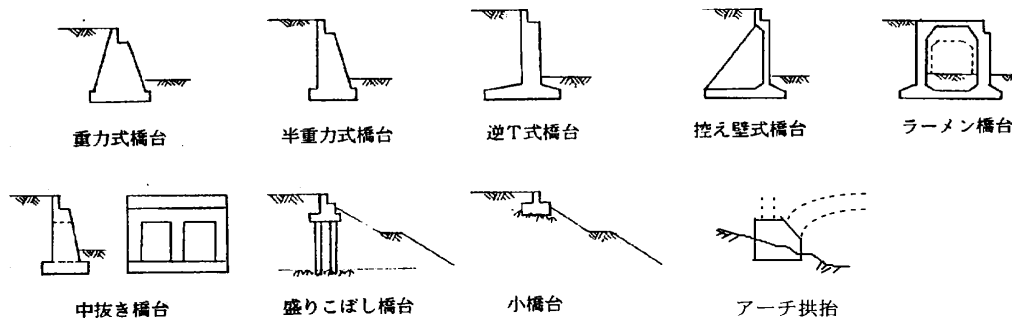
例) 2005年3月 200503

4. 「橋台橋脚構造形式」...[コード選択]

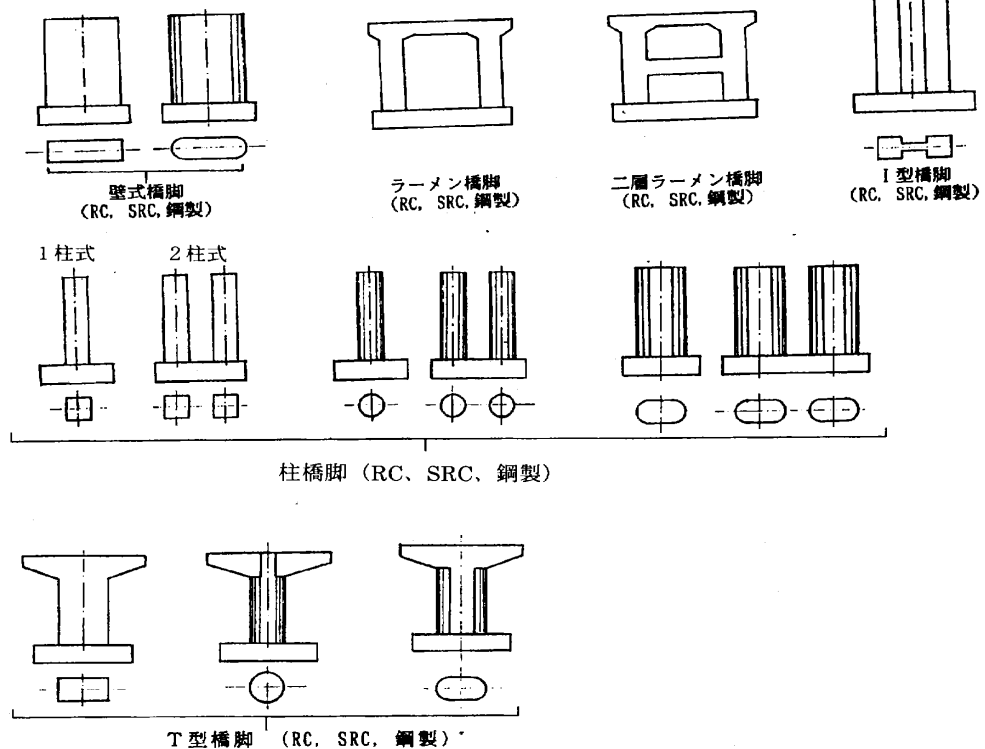
下部工橋脚の構造形式について該当するコードを選択する。  
 柱橋脚と壁式橋脚の区分は、躯体部の短辺(厚さ)と長辺(幅)との比が  
 1:3未満の場合 柱橋脚  
 1:3以上の場合 壁式橋脚 とする。  
 アーチ橋およびラーメン 壁式橋脚 とする。  
 「その他」を選択した場合、「予備1」~「予備5」項目へ該当名称を入力する。

○ 下部工の構造形式(参考図)

橋台形式



橋脚形式



D010 橋梁\_下部工 ( 6 / 12 )

区 分	コード	区 分	コード
重力式橋台	1 1	二層ラーメン橋脚 ( R C )	5 1
半重力式橋台	1 2	( S R C )	5 2
逆 T 式橋台	1 3	( 鋼製 )	5 3
控え壁式橋台	1 4	T 型橋脚 ( R C )	6 1
ラーメン橋台	1 5	( S R C )	6 2
中抜き橋台	1 6	( 鋼製 )	6 3
盛りこぼし橋台	1 7	T 型橋脚 ( R C )	6 4
小橋台	1 8	( 柱円型 ) ( S R C )	6 5
その他 ( 橋台 )	1 9	( 鋼製 )	6 6
壁式橋脚 ( R C )	2 1	T 型橋脚 ( R C )	6 7
( S R C )	2 2	( 柱小判型 ) ( S R C )	6 8
( 鋼製 )	2 3	( 鋼製 )	6 9
柱橋脚 ( R C )	3 1	I 型橋脚 ( R C )	7 1
( S R C )	3 2	( S R C )	7 2
( 鋼製 )	3 3	( 鋼製 )	7 3
柱橋脚 ( R C )	3 4	ハイルハント橋脚 ( R C )	8 1
( 1 柱円 ) ( S R C )	3 5	( S R C )	8 2
( 鋼製 )	3 6	( 鋼製 )	8 3
柱橋脚 ( R C )	3 7	柱橋脚 ( R C )	8 4
( 1 柱小判 ) ( S R C )	3 8	( 2 柱角 ) ( S R C )	8 5
( 鋼製 )	3 9	( 鋼製 )	8 6
ラーメン橋脚 ( R C )	4 1	柱橋脚 ( R C )	8 7
( S R C )	4 2	( 2 柱円 ) ( S R C )	8 8
( 鋼製 )	4 3	( 鋼製 )	8 9
柱橋脚 ( R C )	4 4	柱橋脚 ( R C )	9 1
( 1 柱角 ) ( S R C )	4 5	( 2 柱小判 ) ( S R C )	9 2
( 鋼製 )	4 6	( 鋼製 )	9 3
T 型橋脚 ( R C )	4 7	アーチ拱拾	9 8
( 柱角型 ) ( S R C )	4 8	その他 ( 橋脚 )	9 9
( 鋼製 )	4 9		

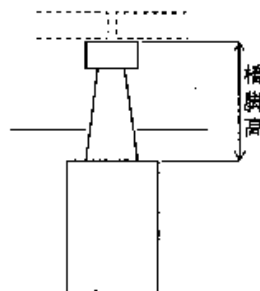
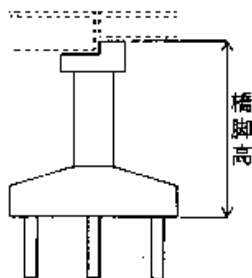
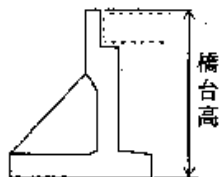
5. 「橋台橋脚高さ」

【橋台の場合】

フーチング下面からパラペット天端までの高さを入力する。  
ただし、基礎がケーソンの場合はケーソン天端からとする。

【橋脚の場合】

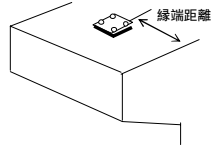
フーチング下面から沓座面までの高さを入力する。  
ただし、基礎がケーソンの場合はケーソン天端からとする。  
また、パラペット天端に横断勾配がある場合は中心線での高さとする。



6. 「起点側縁端距離」

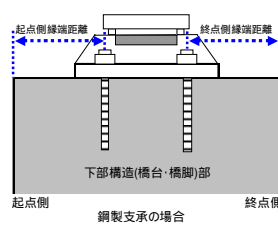
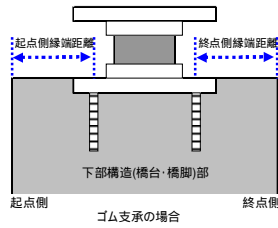
7. 「終点側縁端距離」

起点側、終点側の支承縁端と下部構造部縁端との間の距離 (cm) を小数点以下1位まで入力する。  
縁端距離の計測方法は、道路橋示方書により以下のように異なる。

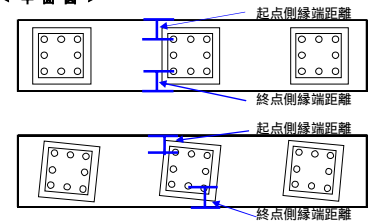


平成8年以降の道路橋示方書の場合

< 断面図 >

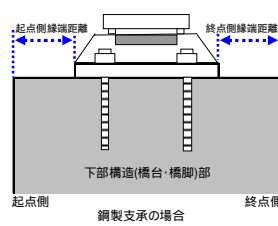
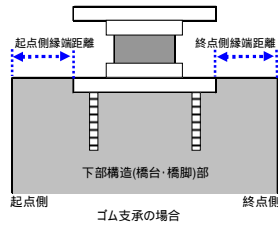


< 平面図 >

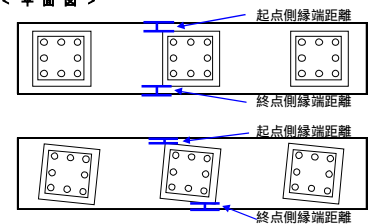


大正15年～平成6年までの道路橋示方書の場合

< 断面図 >



< 平面図 >



注)改良等により縁端距離が変更になる場合は、架設時のものに基づいて測定する。

8. 「基礎形式」...【コード選択】

基礎形式について該当するコードを選択する。

「その他」を選択した場合、「予備1」～「予備5」項目へ該当名称を入力する。

区 分	コード
直接基礎	0
オープンケーソン	1
ニューマチックケーソン	2
鋼管ウエル	3
場所打ちぐい (深礎を含む)	4
既製鋼ぐい	5
既製RCぐい	6
既製PCぐい	7
木ぐい	8
その他(PHCぐい)	9

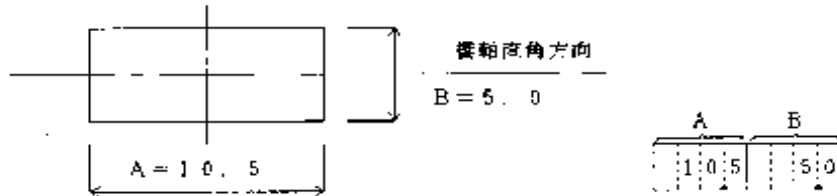
9. 「基礎形状寸法A」

10. 「基礎形状寸法B」

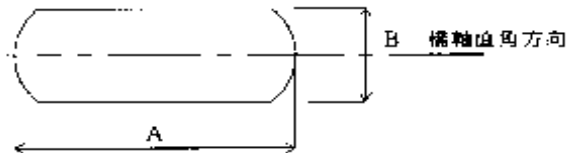
基礎の形状寸法A (m)、B (m)を小数点以下1位まで入力する。

(記入例)

1. 矩形の場合(直接基礎、杭基礎等)



2. 円形・小判形の場合(ケーソン基礎、鋼管ウエル等)



11. 「杭径」

杭基礎の場合は杭径(m)を、鋼管ウエル基礎の場合は、鋼管ウエルの外径(m)を小数点以下1位まで入力する。

該当しない場合は「\*」を入力する。

12. 「杭本数」

基礎形式が杭基礎の場合は杭本数(1基あたりの杭本数)を、鋼管ウエル基礎の場合は、数を入力する。

該当しない場合は「\*」を入力する。

13. 「杭長」

杭基礎の杭長を入力する。

該当しない場合は「\*」を入力する。

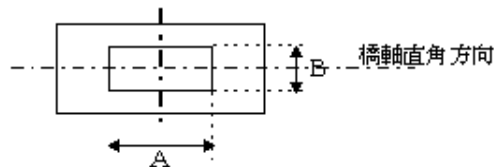
14. 「躯体基部形状寸法A」

15. 「躯体基部形状寸法B」

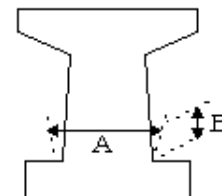
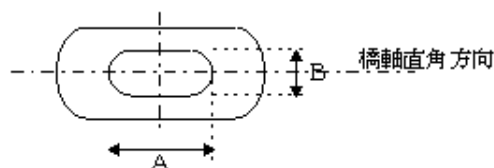
躯体の形状寸法A (m)、B (m)を小数点以下1位まで入力する。

なお、躯体が2本柱の場合は、どちらか一方の基部寸法を入力する。

1. 矩形の場合(直接基礎、杭基礎等)



2. 円形・小判形の場合(ケーソン基礎、鋼管ウエル等)





## 16. 「塗装年月日」

該当する下部工躯体について、新設時の塗装年月日(年は西暦)を入力する。  
(YYYY年MM月DD日:「YYYYMMDD」と8桁で入力)

以下の場合には「\*」を入力する。

- ・新設時でも塗装がなされていない場合(コンクリート橋等)
- ・新設時以外の場合

例) 2005年3月1日      20050301

なお、塗り替えについては、< 詳細情報 > 橋梁(塗装歴)にてデータを作成する。

## 17. 「プライマー下塗塗料」... [コード選択]

下部工躯体の新設時でのプライマーおよび下塗り塗料について該当するコードを選択する。

以下の場合には「\*」を選択する。

- ・新設時でも塗装がなされていない場合(コンクリート橋等)
- ・新設時以外の場合

「その他」を選択した場合、「予備1」～「予備5」項目へ該当名称を入力する。

区 分	コード
長ばく型エッチングプライマー	1 1
短ばく型エッチングプライマー	1 2
有機質ジングリッチプライマー	1 3
無機質ジングリッチプライマー	1 4
塩化ゴム系プライマー	1 5
エポキシ樹脂プライマー	1 6
溶融亜鉛めっき	2 0
亜鉛溶射	2 1
アルミ溶射	2 2
鉛丹さび止めペイント1種	2 3
鉛丹さび止めペイント2種	2 4
鉛系さび止めペイント1種	2 5
鉛系さび止めペイント2種	2 6
亜酸化鉛さび止めペイント1種	2 7
亜酸化鉛さび止めペイント2種	2 8
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	2 9
ジアミド鉛さび止めペイント1種	3 1
ジアミド鉛さび止めペイント2種	3 2
ジクロロメートさび止めペイント1種	3 3
ジクロロメートさび止めペイント2種	3 4
鉛酸カルシウム下塗り塗料	3 5
塩化ゴム系下塗り塗料	4 5
エポキシ樹脂下塗り塗料	4 6
そ の 他	5 9

18. 「中塗塗料」...【コード選択】

19. 「上塗塗料」...【コード選択】

下部工躯体のの新設時での中塗塗料、上塗塗料について該当するコードを選択する。  
以下の場合は「\*」を選択する。

- ・新設時でも塗装がなされていない場合（コンクリート橋等）
- ・新設時以外の場合

「その他」を選択した場合、「予備1」～「予備5」項目へ該当名称を入力する。

区 分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	6 1
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	8 1
フェノール樹脂系M10塗料	7 1
エポキシ樹脂系M10塗料	7 2
アルミニウムペイント中塗り	6 2
タールエポキシ樹脂塗料	7 3
塩化ゴム中塗り塗料	6 5
塩化ゴム上塗り塗料	8 5
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	6 6
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	8 6
フッソ樹脂用中塗り塗料	6 7
フッソ樹脂上塗り塗料	8 7
そ の 他	9 9

20. 「本体塗料面積」

下部工躯体の本体塗装面積を入力する。

以下の場合は「\*」を入力する。

- ・新設時でも塗装がなされていない場合（コンクリート橋等）
- ・新設時以外の場合

21. 「塗装色」

代表的な色を選定し、日本塗装工業会の定めるコードを入力する。

以下の場合は「\*」を入力する。

- ・新設時でも塗装がなされていない場合（コンクリート橋等）
- ・新設時以外の場合

例)            緑                                A12 - 637  
                  ライトグレー                   H1 - 1003

22. 「塗装会社」

塗料を製造した会社名を入力する。

以下の場合は「\*」を入力する。

- ・新設時でも塗装がなされていない場合（コンクリート橋等）
- ・新設時以外の場合

## 23. 「PC鋼材材質」...【コード選択】

PC鋼材の材質について該当するコードを選択する。

PC鋼材以外は「\*」を選択する。

「その他」を選択した場合、「予備1」～「予備5」項目へ該当名称を入力する。

区 分	コード	区 分	コード
SWPR1A、 SWPD1 (SWPR1)	11	SBPR930 / 1080 (SBPR95 / 110) (SBPC110)	17
SWPR2 (SWPC2)	12	SBPR930 / 1180 (SBPR95 / 125)	18
SWPR7A (SWPC3)	13	(SBPC125) SWPR1B	20
SWPR7B	14	SBPR930 / 1030	21
SWPR19	15	(SBPR80 / 105)	
(SBPR80 / 95) (SBPC95)	16	その他	99

## 24. 「PC鋼材緊張工法」...【コード選択】

PC鋼材の緊張工法について該当するコードを選択する。

PC鋼材以外は「\*」を選択する。

「その他」を選択した場合、「予備1」～「予備5」項目へ該当名称を入力する。

区 分	コード
フレシネー工法	11
ディビダーク工法	12
BBRV工法	13
バウルレオンハルト工法	14
レオバ工法	15
MDC工法	16
SEEE工法	17
OBC工法	18
VSL工法	19
OSPA工法	20
そ の 他	99

## 25. 「躯体コンクリート強度」

下部工躯体のコンクリート強度 (kgf / cm<sup>2</sup>) を入力する。

コンクリート以外は「\*」を入力する。

例) 強度 kgf / cm<sup>2</sup> = 270                      270

## 26. 「基礎コンクリート強度」

基礎のコンクリート強度 (kgf / cm<sup>2</sup>) を入力する。

コンクリート以外は「\*」を入力する。

例) 強度 kgf / cm<sup>2</sup> = 270                      270

- 27. 「予備1」
- 28. 「予備2」
- 29. 「予備3」
- 30. 「予備4」
- 31. 「予備5」

「<詳細情報> 橋梁(下部工)」の入力項目で以下のような場合、予備項目へ入力する。  
(それ以外は未入力)

- ・[コード選択]項目で「その他」を選択した場合、該当する名称を入力する。
- ・上記以外に必要とする情報(道路施設基本データ審査機関了承のもと)

1項目の入力範囲は、全角10文字(半角20文字)までとする。

1項目に収まらない場合は次の項目に続きを入力すること。

例) "国土交通省東北地方整備局"と入力する場合

予備1	国土交通省東北地方整
予備2	備局

複数の項目で「その他」コードを選択した場合、先頭に項目番号を入力すること。  
(項目番号とは、入力画面左端列のNo.のこと)

例) No.5の項目に"宮城県"、No.10の項目に"仙台市"と入力する場合

予備1	5:宮城県
予備2	10:仙台市